

千葉市文化交流プラザ(京葉銀行文化プラザ)廃止の方針に関する説明会(概要)

日時：平成28年10月16日(日) 午前10時30分～11時30分

場所：千葉市文化交流プラザ6階 会議室 樺

参加者：16名



【概要は以下のとおり】

1 資料に基づいて次の事項を説明した。

- 施設の現状
- あり方検討の経緯
- 平成27年度基礎調査業務
- 市の方針
- スケジュール等

2 質疑応答の主な内容は次のとおりである。

Q1 売却後の音楽ホールの運営は市が行うのか、施設購入者が行うのか。

A1 施設購入者が運営することになる。

Q2 音楽ホールの運営主体が施設購入者(民間)に替わると、採算性等を考慮し、ホールの利用料金が現状より高額になるのではないか。

A2 売却をする上での諸条件については、今後、皆様からのご意見等を勘案しつつ整理する予定であるが、ある程度料金的な条件もつけたいと考えている。

Q3 平成19年当時は、このプラザ取得に加え、美浜文化ホールを新設し、市として文化に力を入れていると感じていたが、今回の方針を踏まえると、文化施策について方向転換をしているように思うが。

A3 当時のホール整備に関する市の考え方は、市民会館を中心とし、6つの各行政区に地区ホールを整備するということであった。一方、昨年度実施した千葉市文化施設の再構築に関する基礎調査等の結果を踏まえ、J R千葉駅周辺にある3ホールのうちプラザについては、今回お示しした廃止理由から、残念ながら手放さざるをえないという結論に至ったものである。しかしながら、音楽ホールは、土日利用等の状況を踏まえると、出来るかぎり活用したいということで、維持するという条件をつけるという方針になっている。

Q 4 音楽ホールは、10 年後には無くなる可能性があるという理解でよいか。

A 4 売却条件の詳細を決めているわけではないが、公募方法や条件設定において、例えば、応募者の中で、20 年、30 年と使うところを選定するようなやり方もあるかと考えていることから、必ずしも 10 年後にホールが無くなるとは限らない。

また、市民会館の老朽化はかなり進んでおり、何れ建替えの検討をすることを踏まえると、市民会館の建替時期と音楽ホールの廃止時期とのタイムラグがなく建設できれば一番良いと思うことから、できるだけ長く使用してもらいたいと考えている。

Q 5 千葉市では音楽専用ホールというのはプラザの音楽ホールだけである。市民会館を建て替える際に、音楽専用ホールを建てるという構想はあるか。

A 5 市民会館建替えに伴うホール仕様等は未定であるが、同会館の建替えに伴う新ホールの建設と言うことであれば、同会館の利用状況などを踏まえると、音楽専用ホールは考えにくい。

Q 6 市が設定する音楽ホール継続の条件を維持しなかった場合について、購入者への罰則、制約を設定すべきだと思えるが、市はどのように考えているのか。

A 6 政策法務課や契約課など庁内の関係部門と相談した結果になるが、違約金などのペナルティーなどの条件を設定していきたいと考えている。

Q 7 来年度、売却先が決まらなかった場合は、平成 30 年度の利用はできることになるのか。

A 7 スケジュールにあるとおり、売却先の有無に関わらず、施設は平成 29 年度末で廃止することとなり、平成 30 年度以降の利用はできない。

Q 8 配布資料 16 ページに記載されている市民会館大規模化について、「小ホール拡充」というのは具体的にどういうことか。

A 8 基礎調査の結果を踏まえれば、小ホールの数を増やすというイメージになると考えられるが、具体的な内容は、今後検討し、市としての方向性をお示しすることとなる。

Q 9 新ホール建設について、検討等の着手時期は。

A 9 市民会館の老朽化の状況を踏まえながら検討となるが、市全体を見れば、他にも老朽化が進行している公共施設があることから、緊急度などを踏まえて判断することとなる。

Q 10 採算が悪くて廃止するというのは、市として利用の仕方が悪かったのではないか。

A 10 建物全体を維持するには設備改修などに相当の費用が要することとなる。このため、市としても、コミュニティセンター移設などにより、より公益性の高い施設への転換などによる建物全体の利活用を検討したものの、やはり改修費だけでも多大なコストを要することが判明し、断念した。また、建物を解体し再建築するとなれば、それこそ莫大な費用がかかる。そのような中で、音楽ホールだけは残す方向で検討し条件設定することとしたものである。ご理解いただきたい。